

学校だより 9月号 しもながや



横浜市立下永谷小学校

子どもたちの思いが色づく ～ ひょうたんとともに ～

学校長 外山 芳

少し前のことですが、地域の方より立派なひょうたんを頂戴しました。ひょうたんは、古くから人々が「安心」や「繁栄」を託してきた象徴であり、生活の道具としても親しまれてきたものです。このひょうたんに、中休みと昼休みに校長室へ来てくれる子どもたちが絵を描いてくれました。

机の上のひょうたんを見つけた子どもたちは足を止め、「えっ、これひょうたん?」「初めて見た!」「なんかかわいい形だね。」と、驚きと興味が混ざった声、未知のものに出会ったときの純粋なまなざしが、校長室いっぱいに広がりました。

私が「地域の方からいただいたひょうたんなの。みんなの好きなものや思いを描いてみない?」と伝えると、子どもたちは「描きたい!」と、表情が一段と輝き、思い思いに絵を描き始めました。

学校から見える青空と富士山を描いた子どもは、「学校からは富士山が見えるよ。青い空も。素敵でしょ。」と言って、のびやかな線を描いていました。

また、今の気持ちを色で表した子どもは、「言葉じゃ言えないけど、今日はこんな気持ち。」と言いながら色を重ね、その表情はとても柔らかいものでした。

ひょうたんが足りなくて、一つのひょうたんに二人で仲良く絵を描いてくれた子どもたちもありました。

「どんな絵にする?」「ここは青がいいんじゃない?」「じゃあ、こっちは丸い模様にしようよ。」と相談しながら筆を進め、「二人で協力しないとね。」という声も聞こえました。相手の意見を受け止めながら描く姿は、協働する喜びや思いやりが自然に育まれている瞬間でした。

描き終えた子どもたちは、完成したひょうたんを囲んでしばらく眺め、「なんか宝物みたいだね。」「これ、校長先生の部屋に置くの?」と少し誇らしげに話していました。

子どもたちの思いが絵となり、色となり、言葉となって広がっていく姿は、地域の方の温かなまなざしと子どもたちの非認知能力の育ちがひとつになった瞬間でもあります。世界にひとつだけの“子どもたちのひょうたん”が生まれ、学校が地域とともに育まれていることを改めて感じました。

“子どもたちのひょうたん”は職員玄関に飾っております。学校にお越しの際には、ぜひご覧いただければと思います。

そして、夏休みが終わり、子どもたちの学校生活が再び始まりました。子どもたちが描いてくれたひょうたんのように、一人ひとりの思いが色となり形となって広がっていく、そんな毎日をまた大切に育んでいきたいと思います。



“子どもたちのひょうたん”を
技術員さんが素敵に飾っていただきました。